

防潮堤ウォールアートの効果と課題に関する研究

Research on the effects and issues of seawall wall-art

○砂原光晴¹, 寺口敬秀², 桜井慎一², 阿部拓真³

*Mitsuharu Sunahara¹, Takahide Terakuchi², Shin-ichi Sakurai², Takuma Abe³

A seawall is originally a disaster prevention facility and is not a place where people gather, but by using seawall wall-art, it can beautify the landscape, convey local culture, and serve as a symbol of the area. This study aims to demonstrate the effectiveness of seawall wall-art. The research method was an internet search. We were able to confirm 60 cases in 57 locations, and analyzed the content of the art using photographs. As a result, seawalls exist all over Japan, and the most frequently depicted locations were near fishing ports. 63% of the content was related to the sea. Sea-related themes often featured illustrations of fish, while completely unrelated themes featured depictions of local culture.

1. 研究背景および目的

防潮堤は台風などによる大波や高潮、津波の被害を防ぐ施設であり、全国各地に存在している。しかし東日本大震災の津波で、7m以上の高さの防潮堤が作られ、陸側から海が見えなくなってしまうことなど、景観が悪化したケースが見受けられる。その一方で、防潮堤は本来防災施設で、人が集まる場所となりにくい。防潮堤ウォールアートを用いることで、景観美化や、落書きの防止としての効果がある。また、地域の文化や環境保護などを伝えることに用いられ、住民や観光客が賑わう場所となり、地域のシンボルとしての役割を持つことができる。

そこで本研究では、防潮堤ウォールアートの有効性を示すために内容や描かれている場所について把握することを目的とする。

2. 研究方法

Google や X, Instagram, Facebook にて、「防潮堤ウォールアート」、「防潮堤アート」、「堤防アート」、「防潮堤ペインティング」「港アート」の検索を行った結果、57 地点 60 か所の事例が得られ、それらの写真を基に場所や内容の分析を行った（表 1, 図 1）。

3. 結果および考察

調査結果を表 2 に示す。

3-1. 描かれた場所

描かれた防潮堤の場所として、「a. 漁港付近」が 35.0% (21 か所) で最も多く、次いで、「b. 道沿い」が 30.0% (18 か所) であり、「c. 海岸」16.7% (10 か所)、「d. 河川」では 8.3% (4 か所) であった。

3-2. アートの描き方

ウォールアートの描き方を分類した結果、「a. 絵具や塗料で描いた」75.0% (45 か所) が最も多く、鴨川・

表 1. 調査概要

調査期間	2023年8月1日～2023年10月1日
調査対象	全国にある防潮堤ウォールアート
調査内容	防潮堤ウォールアートの描かれた場所、内容
調査方法	インターネットによる検索と画像分析

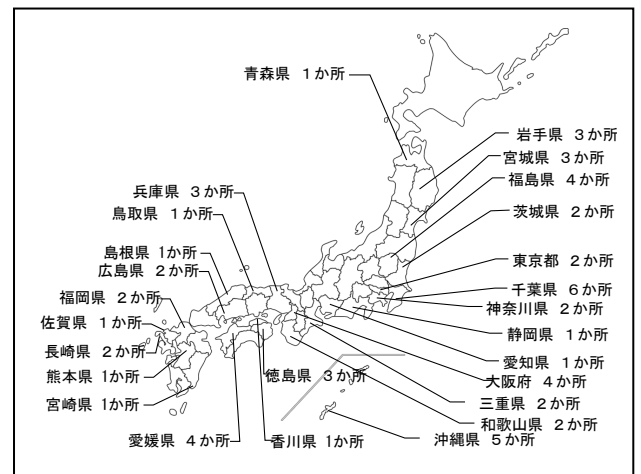


図 1. 調査場所

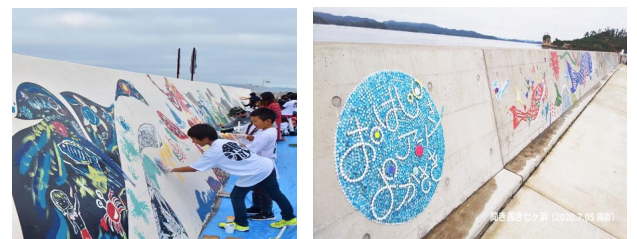


写真 1. 絵具や塗料による製作
(鴨川・前原横渚海岸)

写真 2. おはじきを用いた作品
(宮城県七ヶ浜町)

前原横渚海岸（写真 1）では、筆やローラーを用いたほか、手に塗料をつけて作品を制作していた。次いで、「b. 描かれた絵画を展示した」10.0% (6 か所) であった。その他に、「d. タイルやおはじきを使用したモザイクアート」6.8% (4 か所) があり、宮城県七ヶ浜町（写真 2）では、おはじきを 1 つ 1 つ防潮堤に接着

1 : 日大理工・学部・海建 2 : 日大理工・教員・海建 3 : 日大理工・院 (前)・海建



写真3. 小魚の絵が集合体となって巨大な魚の絵になる作品 (東京都江東区)



写真4. スプレーを用いて、クジラと海中を描いた作品 (香川県引田漁港)



写真5. 地域伝統の曳き舟祭りを描いた作品 (岩手県釜石市)



写真6. 津波災害をタイルによるアートで伝承させる (岩手県大船渡市)

し、立体的な波の様子や鯉がカラフルに描かれていた。

3-3. 海に関連する内容

防潮堤ウォールアートの内容で海に関連するものか分類した結果、「a. 海に関連した内容」が63.3% (38か所)であった。また、「b. 全く海に関連していない」内容も36.7% (22か所)と多い結果となった。

3-4. 海に関連する内容の種類

海に関連する内容を分類したところ、「a. 魚に関するイラスト」が76.3% (29か所)で最も多かった。東京都江東区 (写真3)では、小さい魚のシールを集めて大きな魚を描かれていた。シールを張るという単純な作業であるため、子供にも描きやすいものとなっていた。次いで、「b. クジラ」31.6% (12か所)、「c. 海中」26.3% (10か所)が多く、香川県引田漁港 (写真4)では、スプレーを使って描いたクジラと海中のアートがSNSによって広まり、観光スポットとなっている。また、「e. 船」が23.7% (9か所)あり、岩手県釜石市 (写真5)では、地域の伝統的な行事である曳き舟祭りの様子が描かれており、他の場所でも地域の漁業に関連した作品が描かれていた。そして、「f. 波」は7.5% (5か所)あり、岩手県大船渡市 (写真6)では、東日本大震災で受けた津波の高さを劣化しにくいタイルで表現し、被害の伝承を行っていた。

3-5. 海に関連すること以外に描かれた内容

海に関連していない内容を分類した結果、「a. 地域の伝統文化」56.5% (13か所)が最も多く、次に「b. 自然」が47.8% (11か所)あり、三重県四日市市 (写

表2. 調査結果

1. 描かれた防潮堤の場所	
a. 漁港付近	35.0% (21/60)
b. 道沿い	30.0% (18/60)
c. 海岸	16.7% (10/60)
d. 河川	8.3% (5/60)
f. 明確な場所不明	10.0% (6/60)
2. 防潮堤ウォールアートの描き方	
a. 絵具や塗料で描いた	75.0% (45/60)
b. 描かれた絵画を展示した	10.0% (6/60)
c. スプレーを用いた	8.3% (5/60)
d. タイル等を使用したモザイクアート	6.7% (4/60)
3. 海に関連した内容	
a. 関連している	63.3% (38/60)
b. 全く関連していない	36.7% (22/60)
3-1. 海に関連した内容	
a. 魚のイラスト	76.3% (29/38)
b. クジラ	31.6% (12/38)
c. 海中	26.3% (10/38)
d. タコ	26.3% (10/38)
e. 船	23.7% (9/38)
f. 波	13.2% (5/38)
g. カメ	10.5% (4/38)
h. クラゲ	10.5% (4/38)
3-2. 海に関連しない内容	
a. 地域の伝統文化	56.5% (13/23)
b. 自然	47.8% (11/23)
c. 花	17.4% (4/23)
d. キャラクター	8.7% (2/23)
e. 動物	4.3% (1/23)
f. 人	4.3% (1/23)



写真7. 伝統行事や自然をモチーフに制作された (三重県四日市市)



写真8. 立体的な巨大モンスターが描かれた (千葉県九十九里浜)

真7)では、伝統行事や自然をモチーフにした作品が描かれた。その他に千葉県九十九里浜 (写真8)では、アーティストに依頼する形で、巨大なモンスターが描かれており、それを目当てに防潮堤に行く人々もみられた。

【参考文献】

- [1]七ヶ浜町ブログ：おはじきアート, <https://kikigaki7.hatenablog.com/entry/2021/10/24/224419>, 2021.10.24
- [2]東かがわ市：東かがわ市湾岸アートプロジェクト, <https://wangan-art-project.net>, 2022.7.2
- [3]大船渡市：三陸ブルーラインプロジェクト, <https://blue.sanrk.com>, 2022.9.23
- [4]伊勢新聞：四日市市防潮堤アート, <https://www.isenp.co.jp/2022/06/05/76229>, 2022.6.5